

# 熊本・大分で連続激震

## 阪神淡路大地震級のM7.3

### 地震火山そして原発不安

熊本で、14日午後9時26分頃マグニチュード6.5、16日午前1時25分頃には、1995年1月17日発生した阪神淡路大地震と同程度の、マグニチュード7.3の激震が発生しました。その後も熊本や大分で、震度4以上の強い地震が70回以上も発生しています。国土交通省は、現地にテックフォースを派遣しています。

気象庁が1949年に震度7の震度階級を設定して以降、日本国内において震度7の観測は、2011年3月11日の東日本大震災（震度7、マグニチュード9.0）に続いて4回目であり、九州地方では初の観測です。大分からは熊本にかけては「大分―熊本構造線」や「別府―島原地溝帯」とも呼ばれる日本列島が形成される過程でできた、本州から四国、九州にかけての「中央構造線」と呼ばれる日本最大の断層帯の西の端です。断層帯の延長に位置する阿蘇山の動きも気にならず、さらに、全国で唯一稼働中の九州電力川内原発への影響も懸念されません。

#### 最近の震度7の地震

地震名	発生日時	M	震度
阪神淡路	1995, 1, 17	7, 3	7
新潟中越	2004, 10, 23	6, 8	7
東日本	2011, 3, 11	9, 0	7
熊本	2016, 4, 17	7, 3	7

地震と火山噴火そして原発、住民の方々は目に見えない不安に駆られています。↓

### 現地からの声 被害が広がり先が見えない

現地である九州支部の山下中執から一報が寄せられてきました。被災範囲が広く、今はまだ災害規模の状況把握が精一杯なところで、余震のたびに被害が広がっており、先が見えません。管理職のみならず職員は皆、不眠不休の対応となっており、被災地の救援に行きます。

↑「原発に異常なし」の報道がされていますが、異常が発生してからは遅いのです。東日本大震災から学ぶべきです。

テックフォースや現地職員などの安全対策などを緊急に申し入れ、ユニオンは、今回の大地震に對して救援、復興に全力で当たると共に九州などの当該職員、派遣された職員、業者の安全確保、健康管理に十分配慮するよう申し入れます。

#### こんな時でも現場の安全よりパフォーマンスを優先

こうした状況の下、本省、本局から被災地事務所や現地対応者に対して、複数者から様々な指示があり情報収集ツールが乏しい現場では情報の輻輳と、さらに安全配慮をしているとは思えない指示などにより混乱しています。



被災地に第1陣として入った職員